

## 姫路文学学校準備室第八回

時代錯誤的に文学を掲げたささやかで小さな試みです。

かつて神戸には「神戸市民の学校」があり、今も大阪には全国的な規模の「大阪文学学校」が存続しています。個人的に二つの文学を基調にした学校に縁をもたせてもらいました。五十年前のそんな経験がいまだに創作の面白さのワクワク感を保っているのです。(大西隆志)

昨年七月にスタート。講師には詩人/俳人・大橋愛由等氏、二回目は俳人・夏石番矢氏、三回目は川柳作家・大西泰世氏、四回目は詩人・季村敏夫氏。五回目は小説家・千田草介氏。六回目は再登場の大橋愛由等氏。七回目は神尾和寿氏。

二カ月に一回開催で、小規模でやっています。

講義と創作合評の二部に分かれ、講義のほうは文学、文学につながる哲学思想、社会科学などの文化を中心に、幅広いジャンルを取り扱います。創作合評は、自作の詩歌(詩/俳句/短歌/川柳)、小説、エッセイなどを相互に語り合います。

私たちの文学学校準備室は、姫路というトポスに立脚しつつも、同時に地域性を超えた創造力あふれる文学や表現を発信するメディアであることを目指しています。



### 第8回

日時・9月25日(月曜日)13時30分～17時

会場・ブックカフェギャラリー・クワイエット・ホリデー(Quiet Holiday)2階

姫路市本町68番地/姫路駅からみゆき通り商店街を北へ徒歩7分。国道2号線(東行一方通行)を渡り本町商店街の一本目の角を西に30メートル進む。内藤広告西隣「クワイエット・ホリデー」の2階。

連絡先・090-3714-9387(書肆風羅堂・大西)

◎参加には、自作の詩歌又は小説、エッセイを持参。15部程コピーして下さい。持参できなくても合評会には参加し発言して下さい。楽しくワイワイとやります。

1部の講師には500円のカンパ、ワンドリンク発注必要です。長時間でもあり菓子等の持込は可能。

自作の作品は当日に配布するので、詩は1～2篇。俳句・短歌・川柳は10句、10首程度。

小説、エッセイは1200字(原稿用紙3枚)程度。

1部講座は13:30より質疑応答含め1時間30分程度。休憩を挟んで17:00まで創作合評。

～予告～

### 第9回

日時・2023年11月20日(月曜日)

13時30分～17時

会場・ブックカフェギャラリー・クワイエット・ホリデー(Quiet Holiday)2階

講師・つるんづマリー

(漫画家・ロックシンガー)

テーマは「ぼくの漫画語り仮題」。

近刊は『つるんづ怪談』(大都社)、『魚村奇譚①』(少年画報社)など。

## ※8回目は京谷裕彰(きょうたに ひろあき)による講義。※

### 「戦前期日本のシュルレアリスム詩」

京谷裕彰(きょうたに ひろあき)氏のプロフィール

詩人・批評家(文芸・美術)、姫路市生まれ。シュルレアリスト。

詩誌『エウメニデス』第Ⅲ期同人(2015～2019年)。詩誌『紫陽』編集発行人(2003～2011年)。

編著『薔薇色のアパリシオン 富士原清一詩文集成』(共和国、2019年)。

近年の主な論考に、「琥珀色の宇宙に揺れる布 天牛美矢子・森山佐紀・山西杏奈」(『現代詩手帖』2021年6月号「特集：詩≒美術?」)、「瀧口修造と富士原清一、あるいは二人の守護天使」(『現代詩手帖』2019年11月号「特集：没後40年、瀧口修造」)、「戦前期日本のシュルレアリスム、モダニズム、その表象の問題」(『詩と思想』2018年3月号「特集：戦時下のアジア詩人 風車詩社/尹東柱」)、「詩、そして形而上学。」(『現代詩手帖』2018年2-3月号連載)、「交わりの重なりから夢の回帰へ 関西圏における二つの潮流」(『現代詩手帖』2014年7月号「特集：詩からアートへ/アートから詩へ」)など。

企画した展覧会にOKA・川崎瞳・松平莉奈・松元悠・百合野美沙子 五人展「私、他者、世界、生 現実を超える現実」(コンテンポラリーアートギャラリーZone/大阪市箕面市/2016年12月)、中屋敷智生・薬師川千晴 二人展「制限と超越 二元性、その現象学と形而上学」(Space31/神戸市東灘区/2020年12月)。

批評、企画、コーディネート、トーク等で現代詩・現代美術分野を横断しつつ、主に戦前期日本のシュルレアリスム芸術について研究を続けている。

主催・姫路文学学校準備室、書肆風羅堂  
連絡・姫路市西今宿3-1-9-702(書肆風羅堂)